

棒のごとくに

梅津純子

夜の厠に立たむとするに吾が体痛く固まり身動きできず

何といふわが身の重さ足立たねば摑まり立たむに手に力無し

衣類の脱ぎ着洗顔整髪ままならず身は一夜にて棒のごとくに

指の力失せて戸障子引き出しをわづか開け置く腕を頼みに

肩痛み風呂をわかして夜の更けに温まむとせしことの幾たび

激痛に一睡もせぬ肩に打つステロイド注射麻薬のごと効く

ステロイドの効きもわづかに七日ほど次を頼めば三ヵ月待てと

種々の検査に該当無き故確定すりウマチ性多発筋痛症と

夏から秋へ医療彷徨ひ辿りつくステロイド服用に痛み消えゆく

七月豪雨に泥水被りし薩摩芋指ほどが五本ああ神無月